
stopper ~転生者の戦い~

追憶の俺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

stopper～転生者の戦い～

【Zコード】

Z5830Z

【作者名】

追憶の俺

【あらすじ】

10000ユニーク突破記念！

死んでしまった一人の少年。

彼は天使と共に「リリカルなのは」の世界へ行く……世界の破壊を止める為に……stopper～転生者の戦い～始まります

原作ブレイクが大好きな方は「もどる」推奨します

……俺は死んだ

何故死んだかつて？それは普通に学校の帰り道、トラックが突っ込んできて普通に死んだ。かわすなんてできる訳が無い。恐怖して動けなかつたからさ

ところが今、俺は真っ白な空間にいる。ここが死者の国、すなわち天国だとしたら「どんだけ寂しげなとこなんだよ」と思つ

「おや、また死人が出たか」

何所からか声が聞こえる。てかまた死人つて……言い方がなあ

「ああ……すまない」

「うおつー？」

突然黒い服を着た歳二十代半に見える長身の男が隣に現れる

「うつとお！驚かせてしまつたようだな」

「そりや突然横から出てきたら驚くわつー！」

それにしても何なんだ「コイツ……あれ、どつかで見た様な顔だな

……ひょっとして……？

「まあ君の考え方は間違つていないんじゃがないかな。私はルシフェル、神に仕える天使だ。ようこそ天界へ」

え、今「天界」つて……

「ああ、『天界』さ」

「へえ……此処が天界……てか心読むなし」

「ふふっ、天使だからといって、侮つてもらつちゃあ困るね」

……下手したら発言が変体にしか思えないんだが大丈夫なのか？

「大丈夫だ、問題無い」

…………大問題だな、こりゃ…………

「それで、君はこれからどうするんだ？このまま死者の国に逝くか、『転生者』として世界を破壊するか……」

一つ目の言葉でルシフェルの顔が不機嫌そうになつてゐるのが俺には分かつた

「世界を……破壊……？」

「ああ……そうだ。『転生者』は私利私欲の為人知を超えた力で

世界を荒らし、自分の思いのままに世界を変える……最近こいつは「自己中心的な奴等が増えてね。天界でも問題になつてているんだよ」

「……？」

俺は驚愕した

そんな奴等が世界を破壊……しかも自分の為に……

俺は腹が立つて自分の拳を握り閉める

それを見たルシフュルは驚いたような顔をしていた……そんなに驚いたのが可笑しいか？

「…………あすまない。ちょっと驚いてしまってね。実を言つと君も転生して世界を破壊すると思っていた。こんな私を、許して欲しい」

「いや…………ルシフュルは何も悪くないよ。俺は…………その自分勝手な転生者に…………何もできない自分に腹を立てているんだよ…………！」

「…………なるほど、君は少し変わつているようだね」

「…………わづか？」

「ああ…………とつともね…………なつてみないか？」

stopper『止める者』[六]

……ん？すとづぱー？栓になれと？

「まあそんなどこか。君には『世界の栓』になつて欲しい。こんなヒトを見たのは私も久しぶりだからね……君には『魔法少女リカルなのは』の世界に行って、転生者の暴走を止めてもらいたい」

『リリカルなのは』……『アンプレだな』……

「転生者の暴走を止める……か……まあ出来るといままでやつてみるか」

「ふふっ、有り難う。では君には世界を護るために力を授けよう……」

ルシフェルは指を鳴らすと、二種の武器が現れる

まさか『神パツチン』を間近で見れるとはな……

「……わつにえば、君の名前を聞いてなかつたな」

「ああ、そうだな。俺の名前は……

秋原あきはら 一途たかとさ

これが、俺とルシフェルの出会いの始まりだった

「『れはヒトにほ決して作ることのできない神の知恵、いや……

武器か

「『れが……俺のチカラ、……』

次回、一途の『チカラ』

TAKE
OF

protoype (後書き)

はい、遂に投稿しました！－次回もお楽しみに－！

protoype? —途の『チカラ』（前書き）

原作まで時間がかかりついで。どうも

prologue? —途の『チカラ』

「…………」

「これは神が造り出した知恵……いや、武器か

俺は言葉を失つた。なんかすげえ『神聖』な感じがする

「君には最初に『アーチ』の説明をしよう」

と、『弓』のような武器に指をさす

「『アーチ』、人類が決して辿り着く事の出来ない神の睿智として神が我々に『えられたものだ。先ずは広げてみるか』

と、真ん中の部分が伸びる

「ふふっ、見ての通り継ぎ目すらない美しいフォルムだろう? 14000年前にアイツがこの武器をよく使っていたね」

「…………アイツ?」

「そう、アイツの名前は『イーノック』だった。まあ良い奴だったよ」

良い奴だったって……死亡フラ

「心配するな、アイツは今でも生きているよ。説明の続きをしよう……神はこれを爪楊枝に使っていると噂を聞くが……私はそんな

ところは見た事もないし、信じがたいね

あ、俺もそれ思った。爪楊枝ってな……なんだか使い辛そう

いつの間にか無意識に『アーチ』に触れようとしたその時

バチャイッ！

「うおー？」

突然の出来事だったので手を引っ込めてしまつ

「ひつとー驚いたか？」

「ルシフールも驚いているじゃんよ」

「ははっ、これにはなかなか慣れないからね。これは人が言う電気でもレーザーでもない。いわば神のみが造り出せるエネルギー体だ。気を付けろ、触ると一瞬で浄化されてしまうぞ」

おお……浄化なんてしたら元も子もないからな……

「これは君こやひ。上手く使いこなせよ」

「…良いのか?……いや、有り難う、ルシフール」

「ふふつ、そろそろ魔力の方も与えないとね。タクト、手を出し

「……………？」

ルシフェルの言つとおりに手を差し出す

「……………この者……………世界を守護する『チカラ』を……………」

すると突然俺の手……………いや、体全体が青白く輝く！――

「な――？」

「それが、君の『チカラ』だ」

「これが…………俺の『チカラ』…………！」

「……………これが人間界に繋がる扉だ」

田の前に在るのはよく解らない字が刻まれた巨大な扉……………でさえ

「……………開け」

突然、扉が開いたので俺は下がる

「そこへ行こうか

俺は再び見る地上へと降りた

「此処が『リリカルなのは』の世界……」

「ふつ、また面白いことに……なりそうだな」

次回、『出撃』 TAKE OFF

prologue? —途の『チカラ』（後書き）

はい、遂に『リリカルなのは』の世界にきました！

次回もお楽しみにつ

人物紹介だが、大丈夫か？（前書き）

短いです。どうぞつ

イーノックの紹介追加しました

人物紹介だが、大丈夫か？

秋原 一途 享年15歳
あきはら たかと

容姿は茶髪、茶眼と普通

stopper『止める者』

『リリカルなのは』の世界に往き、転生者の暴走を止める為に戦う神のミス……ではなく、普通にトラックに撥ねられ死亡

ルシフェル 年齢不詳

熾天使
セラフィム

『E1 shaddai』に登場するルシフェルと同一人物

一途を『リリカルなのは』の世界へと導いた神の使い。stopper『止める者』の統率者

以後、一途を影でサポートするようになる

年齢は不明だが、天地創造の頃から生きているらしい。時間を自由自在に操る事が可能

イーノック 年齢不詳

エルダー 評議会書記官

ルシフェルが言つていた14000年前の『アイツ』

所有していたアーチ、ガーレ、ベイルはルシフェルに返却している
人間ではあるが、『天界の力で加齢しない』為、15000年は生
きているらしい

昔、墮天使を人間界から連れ戻し、『大洪水計画』から人々を護
つた事があつた

現在、旅をしているそうだ

人物紹介だが、大丈夫か？（後書き）

現時点ではこんな物ですかね。それでわつ

chapter 01 「出発」(前書き)

明日で学校終わる...。"さあ行こう

ルシフェルに『チカラ』を貰つた俺は……

只今、落下中で御座います つて、ホントにヤバいだろうつ！？

「はつはつはつ、大丈夫だ」

おいおい……そういうやなんか体の調子がなんか……變つていうか

「ああ、転生する時はね、歳が0に戻るからね。その所為なんじやないか？」

よく見れば自分の体が縮んで

「嘘だろおおおおおおお」

そのまま俺は意識を失つた……

「……タクト、ヒトが持つ唯一絶対の『チカラ』、それは自らの意思で進むべき道を、『選択する』事だ。君は世界にとつて最良の未来を想い、自由に選択していくよ。……」

私はせつ無い、タカトと共に落ちていく。『海鳴市』へ

「ふつ……また、面白い事になつそつだな……『イーノック』……」

旧友の名を呼び、六枚の羽根を広げる。アイツは元氣にしているかな?

「…………や…………る…………」

「…………ん?此処は一體…………」

「どひつやひ、私達は無事に『海鳴市』へと辿り着いたよつだ」

『ヒジが……』リリカルなのは『世界、…………

と、起き上がるつとするが、体が動かなかつた

あれ…………何で…………

「ふふつ、これを見て』』らん

何処からか鏡が現れ、俺の顔を映す

な…………

「せせせせせせー。まあ、可愛いんじゃないかな?」

「うぐう……まさか……本当に『赤ん坊』になるとは思わなかつたぞ……」

「そ、私達の『家』に行くか」

「うー？（え、家あるのか？）」

「まあね。此処に来たときに用意しておいたんだよ」

へえ、準備が良いな……つて

「あばぶうひ（なんでおんぶしているんだよ！？）」

だ
さ
艮いんり
ないが
春いか
此处方利這の
蒙

見た目は何処にでもある普通の家だな……

「入るか……」
「私だ。居るなら返事をしろ」

……おい、誰もいなんじやないか？

そう思つていたら、誰かが玄関に来た。この人たちは……

「久しぶりだな……『ルシフェル』」

「あら、そこにいる可愛らしい子はだれかしら?」

「紹介しよう、君の新しい『家族』だ」

次回、『アザゼル』と『エゼキエル』 TAKE OFF

chapter 01 「出撃」（後書き）

はい、今回は無事家に着くまでの話を書いてみました。次回もお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5830z/>

stopper～転生者の戦い～

2011年12月21日14時57分発行